

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 増田 誠宏

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和 8 年 2 月 1 2 日（木）
用 務 先	エディオンピースウイング広島 1 階 多目的室 A 広島市中区基町 15 番 2・1 号 広島市中区国泰寺町 1－6－3 4
用 務	芸備線沿線議員連絡協議会 芸備線研修会
概要及び所見 （目的、参考 にすべき事 項、提言、活用 策等）	【概要】 ●三位一体によるローカル線再生の実践 講演①では、ひたちなか海浜鉄道株式会社 代表取締役社長 吉田千秋氏より、「廃線 危機から延伸へ 三位一体で活性化 ～ひたちなか海浜鉄道の事例～」と題した講演 が行われた。廃線の危機から延伸へと転じた背景には、事業者・行政・市民が一体 となった取組があり、「本気で守る」という地域の意思が再生の原動力であったこと が示された。 ●交通政策と都市政策の融合によるまちづくり 講演②では、前富山市長・富山大学客員教授 森雅志氏より、「交通政策と都市政策 の融合」と題した講演が行われた。富山市では一般会計約 2,000 億円のうち年平均 約 10 億円を鉄道改善に投入し、高山本線の活性化等を進めてきた実績が紹介され、 鉄道を福祉・まちづくりの基盤として位置付ける重要性が示された。 ●ローカル線を地域政策として捉える視点 講演③では、関西大学教授 宇都宮浄人氏より、「国内外の事例を踏まえた地方鉄道 政策のあり方」と題した講演が行われた。ローカル線問題を単なる収支論で語るの ではなく、地域政策・国土政策として捉える必要性が提起され、制度設計の再構築

の重要性が示された。

● 芸備線の具体的再生に向けたデータ分析

講演④では、京都大学名誉教授・富山大学特別研究教授 中川大氏より、「データで読み解く芸備線再生の可能性 ～自治体が動けば鉄道は変わる～」と題した講演が行われた。三次一広島間、特に下深川一広島間における行き違い設備の増設など、具体的な設備投資による輸送力向上の可能性が示された。

● 自治体主体による公共交通維持の必要性

本研修会は参加費無料・事前申込不要で一般にも開放され、沿線地域のみならず全国から多数の参加があった。各講演を通じ、ローカル線は事業者のみで維持できるものではなく、自治体の主体的関与が不可欠であることが共通認識として示された。また、県の役割と責任の在り方についても重要な論点であることが共有された。

・【所見】

本研修を通じて強く認識したのは、「赤字だから投資しない」のではなく、「投資しないから利用が伸びない」という構造的課題である。ローカル線は単なる交通手段ではなく、福祉、教育、環境、まちづくりを支える基盤であり、長期的な市民利益の観点から捉える必要がある。

ひたちなか海浜鉄道や富山市の事例に共通するのは、首長をはじめとした自治体の明確な意思と覚悟である。特に、丁寧な説明と対話を重ねながら住民理解を広げてきた点は、今後の取組において重要である。

また、芸備線についても、設備投資やダイヤ改善により利便性を高める余地が具体的に示されており、現状を前提とした縮小論ではなく、改善による利用促進の視点が不可欠である。

研修会終了後の意見交換においても、政策を前に進めるためには首長の判断が大きな意味を持つことを改めて実感した。自治体として交通を「コスト」ではなく「未来への投資」と位置付け、県・国との役割分担を踏まえながら主体的に関わっていく必要がある。